ジャコバイト辞典(7)

浦　田　早　苗

R

Raasay — ラッセイ島

スカイ島とスコットランド本島との間にある島。1746年のカロデンの戦いの敗北後、スカイ島に身を潜めていたチャールズ・エドワードが、追手から逃れるために渡った島。彼は島のマクラン氏族の庇護を受けたが、マクラン氏族はジャコバイトとして政府に目をつけられていたため、チャールズが滞在したのは1746年7月1日から2日の1泊だけであった。

Radcliffe, Charles, 5th Earl of Derwentwater (1693-1746) — 第5代デウェントウォーター伯爵、チャールズ・ラドクリフ

第3代デウェントウォーター伯爵の弟。1715年の乱に参戦し、捕われて反逆罪を宣告されるが、ニューゲート監獄を脱獄し刑を免れた。その後ジェームズ・エドワードに仕え、1745年の乱に息子とともに参戦し、再び囚われタワーヒルで処刑された。息子はフランス国籍だったため国外追放とされた。

Radcliffe, James, 3rd Earl of Derwentwater (1689-1716) ― 第 3 代デウェントウォーター伯爵、ジェームズ・ラドクリフ

母がチャールズ 2 世の庶子 Lady Mary Tudor で、チャールズ・エドワートの従兄弟。サン・ジェルマン・アン・レイのジャコバイト宮廷で育つ。1715 年の乱では姻戚関係にあったトマス・フォスター軍の指揮官を務めた。1715 年プレストンの戦いで捕虜となり、反逆罪を宣告され、翌 1716 年にロンドン塔で斬首刑に処せられた。

Ray, James (? - ?) ― ジェームズ・レイ

ホワイトヘヴン生まれのジプシーの歴史家。1745 年のジャコバイトの乱に際し政府軍志願兵としてカンバーランド公軍に参加し、カロデンの戦いまで従軍。その体験を綴った本、*A Complete History of the Rebellion in 1745: From its first rise, in 1745, to its total suppression at the glorious battle of Culloden, in April, 1746* を出版し、後の歴史家に影響を与えた。

Richelieu, duc de, Louis François Armand de Vignerot du Plessis (1696-1788) ― 第 3 代リシュリュー公爵、ルイ・フランソワ・アルマン・ド・ヴィニュロ・デュ・プレシ

陸軍元帥としてルイ 14・15・16 世に仕える。1745 年のジャコバイトの乱フランス援軍司令官。チャールズ・エドワードのロンドンへの快進撃の報に、数万のフランス軍がブローニュ・シュール・メールに集結し出陣の機会を伺っていたが、チャールズ軍の突然のダービーからの撤退に出鼻をくじかれ出撃できなかった。

Robertson, Alxander, Baron of Struan (1670-1749) ― ストルアン男爵、アレクサンダー・ロバートソン

第 13 代ロバートソン氏族長。1688 年、大学を退学してダンディ子爵軍に入隊。反逆罪で財産没収されるも逃亡し、フランスに亡命。1703 年に恩赦を受けるが、1715 年の乱に加わりシェリフミュアの戦いで捕らわれたが、再度脱走しフランスに渡る。1731 年にはスコットランドに戻っていたが、1745 年の乱は高齢のため参戦できず、観戦のみとなった。

Robertson, Donald, of Woodsheal (1720-1775) ― ウッドシールのドナルド・ロバートソン

ロバート・バーン・ロバートソンの息子でストルアン男爵アレクサンダー・ロバートソンの義理の息子。1745 年の乱では高齢の義父に代わって、ジャコバイト軍の中佐としてロバートソン氏族を率いた。カロデンの戦い後はフランス軍に投じ、1722 年にスコットランドに帰郷した。

Robertson, Robert, Bhan (1673-1777) ― ロバート・バーン・ロバートソン

ストルアン男爵アレクサンダー・ロバートソンの従兄弟で、シェリフミュアの戦いで捕らわれた男爵の脱走を助けた人物。1745 年の乱に参戦できなかった男爵のボディガードとして、プレストンパンズの戦いを観戦した。1777 年に 104 歳で死亡したと記録されている。

Roehenstart, Count, Charles Edward Augustus Maximilian Stuart (1784-1854) ― ロアンスタール伯爵、チャールズ・エドワード・オーガスタス・マクシミリアン・ステュアート

チャールズ・エドワードの非嫡出子の外孫。チャールズ・エドワードの非嫡出の娘シャーロット・ステュアートと、カンブレー大司教マクシミリアン・ド・ロアンとの間の非嫡出子として生まれた。成人してロシア陸軍に入隊し中佐の位まで達し、伯爵を自称した。

Royal Scots ― 王立スコットランド連隊

最も古い英国連隊の 1 つ。十字軍の頃にも存在は認められるが、1633 年にチャールズ 1 世によって整備された。勇猛果敢な連隊として知られ、1745 年には連隊は二分割され、一隊はオーストリア継承戦争のフォントノイの戦いで、もう一隊は 1745 年のジャコバイト乱で多大な功績をあげた。

Royal Scots Fusiliers ― 王立スコットランド・フュージリア連隊

1678 年第 5 代マー伯チャールズ・アースキンにより創設された歩兵連隊。1715 年の乱では、皮肉にもシェリフミュアで創設者の息子第 6 代マー伯ジョン・アースキンと戦った。1745 年の乱ではブレア城攻略とカロデンの戦いで武勇を響かせた。1959 年以降は王立ハイランド・フュージリア連隊に改名された。フュージリア（Fusilier）とは、「フュージル」（fusil）と呼ばれた軽いフリントロック式マスケット銃で武装した兵士を意味する。

Royal Scots Greys ― 王立スコットランド・グレイズ連隊

1678 年創設の竜騎兵連隊。1696 年のクロムデールの戦いでジャコバイト軍を敗北させ、1715 年のシェリフミュアの戦いでマー伯軍の進撃を止めた。1719 年のグレンシールの戦いでジェームズ・キース軍の制圧に大きな功績を挙げた。1745 年はオーストリア継承戦争に専念し、ジャコバイトの乱には関わらなかった。

Ruthven Barracks ― ロートヴェン・バラックス

ここはもともとロートヴェン城があったのだが、1689 年にジャコバイトのダンディ子爵によって破壊された後、1719 年ジャコバイトの脅威に備え政府軍兵舎として再建された。1746 年 2 月ジャコバイトの手に渡り、4 月のカロデンの戦いを生き延びたジャコバイトが再起を期して集まったが、チャールズはここで軍の解散を宣言した。その直後ジャコバイトによって火を放たれたが、外観は比較的状態の良いまま残っている。

Russell, Edward, 1st Earl of Orford (1653-1727) ― 初代オーフォード伯爵、エドワード・ラッセル

1671 年から英国海軍軍人。第 3 次英蘭戦争等で活躍したが、1683 年、甥のラッセル卿がライハウス陰謀事件に関与したため解職され、1688 年の革命を画策する。ウィリアム 3 世の即位と共に海軍提督に昇進した。1692 年ラ・ハーグの海戦でフランスを破り、1694-99 年海軍大臣を務め、1697 年に伯爵位を拝命する。

Russell, William, Lord Russell (1639-1683) ― ラッセル卿、ウィリアム・ラッセル

第5代ベッドフォード伯爵の3男で、下院議員。1678-81年に英国を席巻したタイタス・オーツ（Titus Oates）が捏造したカトリック教徒によるクーデター計画を恐れ、カトリック教徒のヨーク公ジェームズの王位継承に反対した。後にライハウス陰謀（Rye House Plot）と呼ばれるチャールズ2世とヨーク公ジェームズの暗殺計画を企てるが、未然に発覚し1683年に処刑された。

S

Sacheverell, Henry (1674-1724) ― ヘンリ・サッシュヴェレル

英国国教会の高教会派（English High Church）説教師。演説「危殆に瀕する国教会（the church in danger）」は、国教徒が国民の 8 割を占めるイングランドで多大な支持を受けた。これをきっかけに 1713 年、政府は 12 名以上の集会を禁じる「暴動法（The Riot Act）」を制定せざるを得なかった。同年彼はロンドンのホルボーンにあるセント・アンドリュー教会の司祭に任命された。

Saint-Germain-en-Laye, Château de ― サン・ジェルマン・アン・レイ城

パリの西方 19 km にある王宮。12 世紀に城塞として建てられたのを基に、16 ～ 17 世紀に王の居城の一つとして使われていた。ルイ 14 世生誕の城。ルイ 14 世は 1688 年にイングランド王ジェームズ 2 世が英国から亡命してくると、この城を彼に提供した。 ジェームズはこの城に 13 年の間起居し、この間に娘ルイーズ・マリア・テレーザをもうけている。

St John, Henry, 1st Viscount Bolingbroke (1678-1751) — 初代ボーリンブロック子爵、ヘンリ・サンジョン

ジョン・チャーチルとも親交が深く、1710-14 年国務大臣を務めた政治家。1712 年に子爵位を拝受したが、ユトレヒト条約締結の責により 1715 年ウィッグから弾劾されると、チャールズ・エドワードを頼ってフランスに亡命した。その後恩赦により 1723 年に帰国すると、議席は有しなかったが、野において宣伝紙『クラフツマン』等を介してイートン校以来のライバル、ウォルポールに対して論陣を張った。

Saint-Nazaire — サン・ナゼール

チャールズ・エドワードが 1745 年 7 月 16 日英国に向けて出帆した村。ロワール川河口のビスケー湾にのぞむ。64 門の砲を備えた大型軍艦エリザベス号に野砲 20 門、3 千 500 丁の銃器、2 千 400 振の剣、4 千ルイドール（仏金貨）、及び 700 の軍勢を載せ、自らは 7 名の従者と共に、小型フリゲート艦ラ・デュテュイエ号に乗りこんだ。

San Sebastián — サン・セバスチャン

スペイン・バスク地方にあるビスケー湾に面した町。1719 年 3 月、市街地から 5 キロ東に位置するパサイアの港から出撃したジョージ・キース率いる 300 名のスペイン兵がスコットランドに上陸し、ロッホ・アルシュ湖畔のイーリン・ドナン城に陣を張り、1719 年の乱の幕開となった。

Sancroft, William (1617-1693) ― ウィリアム・サンクロフト

1664 年からセント・ポールズ大聖堂首席司祭（Dean of St Paul's）で、ロンドン大火後の大聖堂再建に貢献した。1677 年からキャンタベリ大主教職に就くが、1690 年ウィリアム 3 世に対する忠誠拒否によりその職を解かれる。1688 年の革命後もジェームズ 2 世を英国の正統国王として称え、終生彼のための祈りを欠かさなかったという。

Sarah Churchill, Duchess of Marlborough (1660-1744) ― モールバラ公爵夫人、サラ・チャーチル

父がヨーク公と親交があったため、ヨーク公爵夫人の女官となり、その次女アンと親密になる。1677 年チャーチルと結婚し、2 男 5 女をもうけた。アン即位後、アン女王に対する影響力を使って、宮廷政治に大きく関わり、ハノーヴァ朝の誕生以後はジョージ 2 世妃キャロラインと親しくなり、84 歳で天寿を全うした。

Saxe, Hermann Maurice de (1696-1750) ― ヘルマン・モーリス・ド・サックス

ザクセン選帝侯アウグスト 1 世の庶子で、12 歳で陸軍少尉となり、プリンス・オイゲン軍に加わった。その後ロシアのピョートル大帝に仕え、1720 年以降フランス軍に加わり、ポーランド継承戦争（1734-38 年）で活躍する。ルイ 15 世の愛妾ポンパドゥール夫人の推薦もあって、フランス陸軍元帥・最高司令官に任命された。

Schomberg, Frederick, 1st Duke of Schomberg (1615-1690) ― 初代ショーンベルク公爵、フレデリック・ショーンベルク

ハイデルベルク生まれの軍人。フランス陸軍中将だったが、プロテスタントでウィリアムとも知己があり、1688 年にはウィリアムの英国侵攻軍に加わった。翌 1689 年にイングランドの公爵に叙され、英国議会はルイ 14 世に奪われた彼の財産補填のため 1 万ポンドを与える。政府軍指揮官としてジャコバイト軍と戦い、ボイン川の戦いで戦死した。

Scone, Stone of ― スクーンの石

代々のスコットランド王が、この石の上で戴冠式を挙げたとされる石。1296 年にエドワード 1 世によってイングランドに戦利品として奪い去られ、木製の椅子にはめ込まれ、代々のイングランド王は、この椅子を使って即位式を行った。1996 年、スコットランド出身のトニー・ブレア首相によりスクーンの石は 700 年ぶりにスコットランドに返還され、現在はエディンバラ城に保管されている。

Scotch Gate, Carlisle Castle ― カーライル城、スコッチ・ゲート

カーライル城の東側に位置する門。リチャード・ゲートとも呼ばれている。1746 年カーライル城（スコットランド国境に近い 1092 年に築かれた城）に収監され処刑されたジャコバイト士官の首が、その後 20 年に渡って晒されていた門。

Scots Magazine, 1739-1826 ― スコッツ・マガジン

ロンドンの『クラフツマン』に対抗して 1739 年エディンバラで創設された雑誌。1745 年のジャコバイトの乱に関し、偏見はあるものの膨大で詳細な記事を載せている。

Scots Pine ― スコッツ・パイン

ヨーロッパ赤松の一種。ウェールズにおいてこの木が植えている家の持ち主は、ジャコバイトを意味した。

Scott, Sir Walter, 1st Baronet (1771-1832) ― 初代准男爵、サー・ウォルター・スコット

スコットランドの詩人、小説家。ロマン主義作家として歴史小説で名声を博した。処女作『ウェイヴァリー』(1814 年) をはじめとした多くの作品で、ジャコバイトの夢と挫折を著わした。1689 年のキリクランシーの戦いで斃れたダンディ子爵は、彼の作品によってスコットランドの人々に「Bonnie Dundee (麗しのダンディ)」と語り継がれている。

Seven Men of Moidart ― モイダートの 7 人

1745 年の乱開戦に際し、チャール・エドワードに従って、ロッホ・モイダートに上陸した 7 人の従者。それらは、Tullibardine 侯、O'Sullivan 大佐、John MacDonald、Thomas Sheridan、Aeneas MacDonald、Reverend George Kelly、Francis Strickland。上陸の地には、彼らを記念した 7 本の木が植えられている。

Sgian Dhu ― スキャン・ディユ

ハイランダーの戦闘服キルトに付随する単刃のナイフ。利き手側のストッキングに挟んで所持するものであるが、武器としてではなく食事など日常の身の回りの生活に役立てていた。現代でも伝統的ハイランダーの衣装を着る際に身につけることが、英国においては法的に許可されている。

Stuart, Charlotte, Duchess of Albany (1753-1789) ― アルバニ公爵夫人、シャルロット・スチュアート

チャールズ・エドワードとクレメンティーナ・ワーキンショウの庶子。2 人は 1752 年から 60 年まで愛人関係にあったが、チャールズはこの母娘に冷たく、彼女達は最初チャールズの父ジェームズ・エドワード、後に弟のヘンリ枢機卿から援助を受けた。シャルロットはその後結婚し 3 人の子供をもうけたが、その誕生は長い間秘密にされていた。

Sheppard, James (1697-1718) ― ジェームズ・シェパード

サウスワーク出身の商人の息子。学生時代、1715 年の乱に共感しジャコバイトになる。馬車塗装工の徒弟であった 1718 年にジョージ 1 世暗殺を単独で計画するが、密告により未遂のうち捕えられ、ニューゲート監獄に収監され同年にタイバン刑場で処刑された。この計画の発覚が、フランス・オランダ・神聖ローマ帝国と英国間の 4 国同盟締結の一因となった。

Sheridan, Thomas (1676-1746) ― トーマス・シェリダン

アイルランド人のジャコバイト。母がジェームズ2世の私生児。ボイン川の戦いから参戦し、チャールズ・エドワードの家庭教師でもあった。70歳を越えていたが、チャールズに従って1745年の乱に加わった、モイダートの7人の一人でもある。1745年の乱後、ジェームズ・エドワードに謁見するが、彼に内密で行われた1745年の乱の責任は問われなかった。

Sheriffmuir, Battle of 13 November 1715 ― シェリフミュアの戦い（**1715年11月13日**）

1715年9月6日ブレーマーにおいて挙兵したマー伯の下にスコットランド各地から兵が集まり、10月初めにはその数1万2千もの軍勢に膨れ上がっていた。11月13日、マー伯軍はパース近くのシェリフミュアで政府軍と対戦し、自軍の損害は232名であったのに対し政府軍に663名もの死傷者をださせた。マー伯はこの勝利後、それ以上の進軍をしなかった。その理由は、彼の予想をはるかに越える勢いで急激に兵が増加したため南下する際の補給線の確保が困難であり、また軍資金が尽きかけてしまったためであった。1715年の乱はこの戦いとプレストンの戦い（10月6日ワークウォースで挙兵したトマス・フォスターが11月12日ランカシャーのプレストンで政府軍と一戦を交えたが、駆けつけた政府カーペンター軍に包囲されると、フォスターは1千500名の兵とともに11月14日に投降した）で事実上終結する。

Shippen, William (1673-1743) ― ウィリアム・シッペン

トーリ党の下院議員でジャコバイト。18 世紀初期、過激な発言で名を轟かしていたが、1717 年に議会で、「国王は英国の言語にも憲政にも疎く、…英国よりもハノーヴァの利益を優先している」という発言をしたためロンドン塔に収監され、釈放後 1718 年にはジェームズ・エドワードに忠誠を誓った。

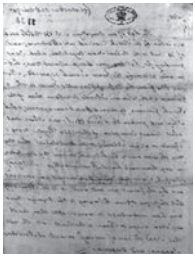
Shrewsbury, 1st Duke of, Charles Talbot (1660-1718) ― 初代シュールズベリ公爵、チャールズ・タルボ

チャールズ 2 世が名付け親となった貴族。ジェームズ 2 世の下でも海軍軍人として仕えたが、1679 年にカトリックから英国国教会に改宗した。Immortal Seven の 1 人で、彼の館において革命の陰謀が画策された。1688 年にはネーデルラントに渡り、ウィリアムと共にイングランドに侵攻した。1694 年公爵に叙せられ、国務大臣、財務長官等の政府の要職を歴任した。

Sidney, Henry, 1st Earl of Romney (1641-1704) ― 初代ロムニー伯爵、ヘンリ・シドニー

1679 年から下院議員。1681-85 年在ネーデルラント英国連隊指揮官となり、ウィリアムと知己を得る。兄のアルジャノン卿がライハウス陰謀事件（チャールズ 2 世とヨーク公ジェームズ暗殺計画）に関与したためジェームズ 2 世の即位により職位を解かれた。ウィリアム招聘状にサインした 1 人（Immortal Seven）で、革命後は叙爵され国務大臣などの重要職に就いた。

Smith, Samuel (? - ?) ― サミュエル・スミス



1745 年の乱で捕虜になったジャコバイトを植民地に送った奴隷商人。ジャコバイト一人あたり 5 ポンドで購入して、植民地に 7 ポンドで売りつけていたという。1747 年に 150 名のジャコバイト奴隷を乗せた彼の船がフランスの海賊に捕獲されたという手紙が、英国王立古文書館に残されている。

Sobieski, Maria Clementina (1702-1735) ― マリア・クレメンティーナ・ソビエスキ

ポーランド王家の血を継ぐ貴族。ジェームズ・エドワードの妻で、チャールズ・エドワードとヘンリ・ベネディクトの母。結婚生活はうまくいかず、次男ヘンリの誕生後、マリアは一人ローマの聖チェチーリア修道院へ身を寄せた。ジェームズと和解するまで 2 年以上かかり、その心労のためか、1735 年 32 歳で亡くなった。

Somers, John, 1st Baron Somers (1651-1716) ― 初代ソマーズ男爵、ジョン・ソマーズ

1689-92 年法務次官、1692-93 年法務長官職に就いた法律家・政治家で、ラッセル、シドニーとも親交の深かったウィッグの実力者。1691 年ジャコバイト裁判の審理を通して、ウィリアムの信を得た数少ない英国人で、1697 年大法官に任命され男爵位を叙爵される。1694 年にイングランド銀行を創設した、いわゆる「ウィッグ・ジャントー」の 1 人。

Somerset, 6th Duke of, Charles Seymour (1662-1748) ― 第 6 代サマセット公爵、チャールズ・シーモア

1678 年に公爵位を継ぐ。1685 年ジェームズ 2 世から騎兵連隊大佐に任命されたが、1688 年にはウィリアムの側についた。アン女王に気に入られ 1702 年に主馬頭になるが、アンの死期が近づくとシュールズベリをはじめとしたウィッグと行動を共にして、ハノーヴァ朝の成立に賛同したため、ジョージ 1 世の下でも官職を得た。

Sophia Dorothea (1666-1726) ― ソフィア・ドロテア

1682 年に従兄妹のジョージ・ルイ、後のジョージ 1 世と結婚する。ジョージ 2 世の母。戦場を駆け巡るジョージとは不仲で、スウェーデン貴族ケニヒスマルク伯爵に魅かれるが、1694 年伯爵は夫ジョージによって殺害され、彼女は亡くなるまでの 32 年間ハノーヴァの古城アールデン城に幽閉された。息子ジョージは母の無実を信じ、父を憎悪した。

Sophie von Hannover (1630-1714) ― ゾフィー・フォン・ハノーファー

チャールズ 1 世の姉エリザベスの娘。1658 年に後の初代ハノーヴァ選帝侯アーネスト・オーガストと結婚する。聡明で博学であったが、息子ジョージに対する厳格な躾と孫ジョージへの溺愛は、後に英国国王ジョージ 1 世、2 世親子の確執を生んだ。アン女王崩御の 2 ヵ月前に亡くなり、英国王位には就けなかった。

Spencer, Charles, 3rd Duke of Marlborough, 5th Earl of Sunderland (1706-1758) ― **第 3 代モールバラ公爵、第 5 代サンダーランド伯爵、チャールズ・スペンサー**

英国の貴族・政治家・軍人。1729 年に兄よりサンダーランド伯爵位、1733 年に母方の伯母よりモールバラ公爵位を継承した。陸軍少将として 1743 年のディティンゲンの戦いに近衛歩兵旅団長として参戦。英仏 7 年戦争の遠征中の 1758 年に赤痢で亡くなった。

Stair, 1st Earl of, John Dalrymple (1648-1707) ― **初代ステア伯爵、ジョン・ダリンプル**

スコットランド長官（Secretary of Scotland）で 1692 年のグレンコーの虐殺の首謀者。親イングランド派の貴族で、スコットランド王国とイングランド王国を合同させた 1706 年の連合条約（Treaty of Union）で重要な役割を果たした。

Stanhope, James, 1st Earl Stanhope (1673-1721) ― **初代スタンホープ伯爵、ジェームズ・スタンホープ**

1701 年から下院議員となるが、スペイン継承戦争には連隊指揮官として従軍した。親ハノーヴァ派の政治家としてジョージ 1 世の外交政策を支え、1717 年大蔵卿に就任し事実上の首相となる。1718 年に伯爵位を受けたが、国務大臣であった彼は、「南海バブル」に関わる収賄の疑いがかけられ、その長時間の弁明の直後に心臓麻痺で急死した。

Stewart, Alexander, 8th of Invernahyle (1708-1795) ― 第 8 代インヴァナイル氏族長、アレクサンダー・スチュアート

ジャコバイトの戦士。1715 年の乱ではマー伯と、1745 年の乱ではチャールズ・エドワードとともに戦った。カロデンの戦いで重傷を負い捕らわれたが、1747 年に恩赦を受けた。後年ウォルター・スコットの家族と親交があり、後のスコットの著作に大きく影響を与えた。

Stewart, Alan Breck (1722-1789) ― アラン・ブレック・スチュアート

ジャコバイトの戦士。1745 年のジャコバイトの乱が勃発する直前、英国連隊に徴兵されプレストンパンズの戦いにコープ将軍旗下政府側として参戦したが、すぐにジャコバイトに寝返った。カロデンの戦い敗北後はフランスに亡命してフランス軍に入隊し、ジャコバイトの連絡員としても活躍した。

Stewart, Archibald (1697-1780) ― アーチボルド・スチュアート

1745 年の乱当時のエディンバラ市長。チャールズ・エドワード軍に対して抵抗することなく開城した責で裁判にかけられた。1 万 5 千ポンド（現在の価格にすると数億円）という 18 世紀では異例に高額の保釈金を支払った。1747 年 11 月 2 日に無罪判決が出された。

Stewart, Charles, 5th of Ardshiel (1695-1757) ― 第 5 代アードシェル氏族長、チャールズ・スチュアート

ハイランド・ジャコバイト。1715 年の乱には父である第 4 代アードシェル族長とともに、400 人の氏族を率いて参戦。その後ジャコバイトの参謀となり 1745 年の乱でも兵を率いた。カロデン敗北後はチャールズ・エドワードと共にフランスに亡命し、1749 年には財産が没収された。

Stewart, Duncan, 6th of Ardshiel (1732-1793) ― 第 6 代アードシェル氏族長、ダンカン・スチュアート

第 5 代アードシェル氏族長の息子。父が 1745 年の乱にジャコバイト軍の参謀として加わったため財産没収となり、アメリカに移住した。アメリカ独立戦争では政府軍兵士として参戦し、その功績を認められ、父が失った財産は 1785 年に返還された。

Stirling Castle ― スターリング城

スターリングにある 12 世紀建設の城。キャスル・ヒルと呼ばれる岩の上に建ち、三方を険しい断崖に囲まれ防御に優れていた。1715 年の乱、45 年の乱でもジャコバイトの侵入を防いだ。チャールズ・エドワードはこの城を包囲し 2 ヶ月もかけて攻城したが、ついに落とすことはできなかった。

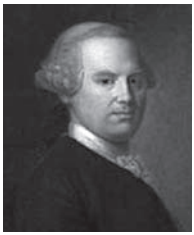
Stiring, James (1692-1770) ― ジェームズ・スターリング

スターリング数を導入した数学者。ジャコバイトであったため、オックスフォード大学での職を失い、その後ベネチアに渡り、門外不出のベネチアン・グラスの製法を解明した。ロンドンに戻ると、1735年にスコットランド鉱業会社（Scotch Mining Company）の支配人に任命された。

Stolberg-Gedern, Luise zu (1752-1824) ― ストルバーク・ゲーデルン選帝侯女、ルイーズ

妹が第3代バーウィック公（ジェームズ2世の曾孫）の息子と結婚したことからチャールズ・エドワードと知り合い、英国王妃の期待を抱き20歳の時に31歳年上のチャールズと結婚したが、2人の間に子供は生まれず、その結婚も幸せなものではなかった。チャールズが名乗ることを許されていたAlbany伯爵位から、アルバニ伯爵夫人と呼ばれた。

Strange, Sir Robert (1721-1792) ― サー・ロバート・ストレンジ



スコットランド人の彫刻師。真のジャコバイトではなかったが、知人の女性に説得されジャコバイト紙幣の作成を引き受けチャールズ・エドワードの肖像画を描いたが、1745年の乱の敗北で仕事は取り消された。その後ロンドンに移り住み、高名な彫刻師としてジョージ3世に叙爵された。

Strickland, Thomas John Francis (c.1682-1740) ― トーマス・ジョン・フランシス・ストリックランド

英国ローマン・カトリック教会の司教。カトリック教会と英国政府の融和を目指したが、カトリック教徒のジェームズ・エドワードが彼の信仰を非難し続けたため、その試みは成功しなかった。1727 年にナミュールの司教に任命され、ローマに居を移し、英国政府とローマ教皇との連絡役となった。

Strickland, Winifred, Lady (1645-1725) ― レディ・ウィニフレッド・ストリックランド

ジェームズ 2 世妃メアリの侍従。ジェームズ・エドワードの教育係り、後に亡命王妃の御寝所係官としてサンジェルマン・アン・レイの亡命宮廷に仕えた。王妃の死後はルーエンに引退し、夫トーマスの供養に務めた。トーマス・ジョン・ストリックランドの母でもあった。

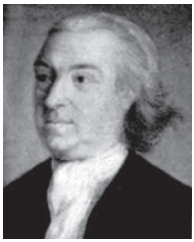
Stuart dynasty, 1371-1714 ― スチュアート朝

1371 年から 1714 年まで続いた、スコットランドを起源とする王朝。メアリ女王の時、綴りを Stewart から Stuart 改めた。1603 年にイングランドとの同君連合、1707 年にグレート・ブリテン王国を成立させた。王朝最後のアン女王の死後はジェームズ 1 世の曾孫に当たるゲオルク・ルートヴィヒがグレート・ブリテン国王ジョージ 1 世として即位し、ハノーヴァ朝が成立した。

Stuart, Henry Frederick (1594-1612) ― ヘンリ・フレデリック・スチュアート

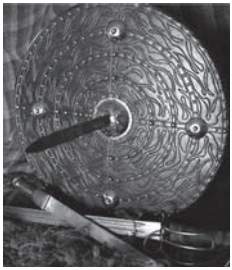
スコットランド国王ジェームズ6世（後の同君連合ジェームズ1世）の長男で、ウィットに富む明るい性格の国民から人気のあった皇太子。育ての親はマー伯アレクサンダー・アスキン（1715年のジャコバイトの乱を起こすマー伯ジョン・アスキンの先祖）の影響もあって、成長してからは父王の専制政治を批判した。オックスフォード大学モードリアン・カレッジに入学し将来を嘱望されたが、18歳の時チフスによって死亡する。

Stuart, Sir James, 3rd Baronet of Goodtrees (1707-1780) ― 第3代ゴッツリー准男爵、サー・ジェームズ・スチュアート



スコットランドのジャコバイトで経済学者。1745年の乱ではグレート・ブリテンのブランドン公爵でもあったハミルトン公爵を説得して、チャールズ・エドワードに1万5千ポンドを寄付させた。英国で最初に政治経済学を著わした人物としても知られている。

Stuart, John, Roy (1700-1752) ― ジョン・ロイ・スチュアート



スコットランドの兵士でジャコバイト。詩人としても知られている。スコットランド連隊除隊後はフランス軍に従事していたが、1745年の乱には自らの連隊を率いて参戦。クラフトン、キルカーク、カロデンの戦いにおける勇猛さで名を高めた。決死の逃避行の末、1746年にチャールズ・エドワードとともにフランスへの亡命に成功する。

Sub Rosa ― 秘密に

ラテン語で ‘under the rose’ を意味する。天井にバラを花を彫り、宴席での秘密厳守を求めた古習慣に由来する。ジャコバイトの秘密集会では Jacobite Rose、Bonnie Prince Charlie's Rose の別名を持つロサ・アルバ（Rosa alba）を天井から吊して行うのが慣例であり、Sub Rosa 自体がジャコバイト会議のコードネームとなった。

Sunderland, Charles Spencer, 3rd Earl of (1674-1722) ― 第 3 代サンダーランド伯爵、チャールズ・スペンサー

ウィッグの政治家。1695 年下院議員となり、第 2 代ニューカッスル公の娘アラベラと結婚するが、彼女が亡くなって 3 年後の 1700 年にチャーチルの娘アンと再婚した。1702 年に第 3 代サンダーランド伯位を継ぎ、イングランドースコットランド連合交渉委員として連合成立に尽力する。1714-17 年アイルランド総督、1717-18 年国務大臣、1718-21 年大蔵卿と要職を歴任した。